

音楽診断

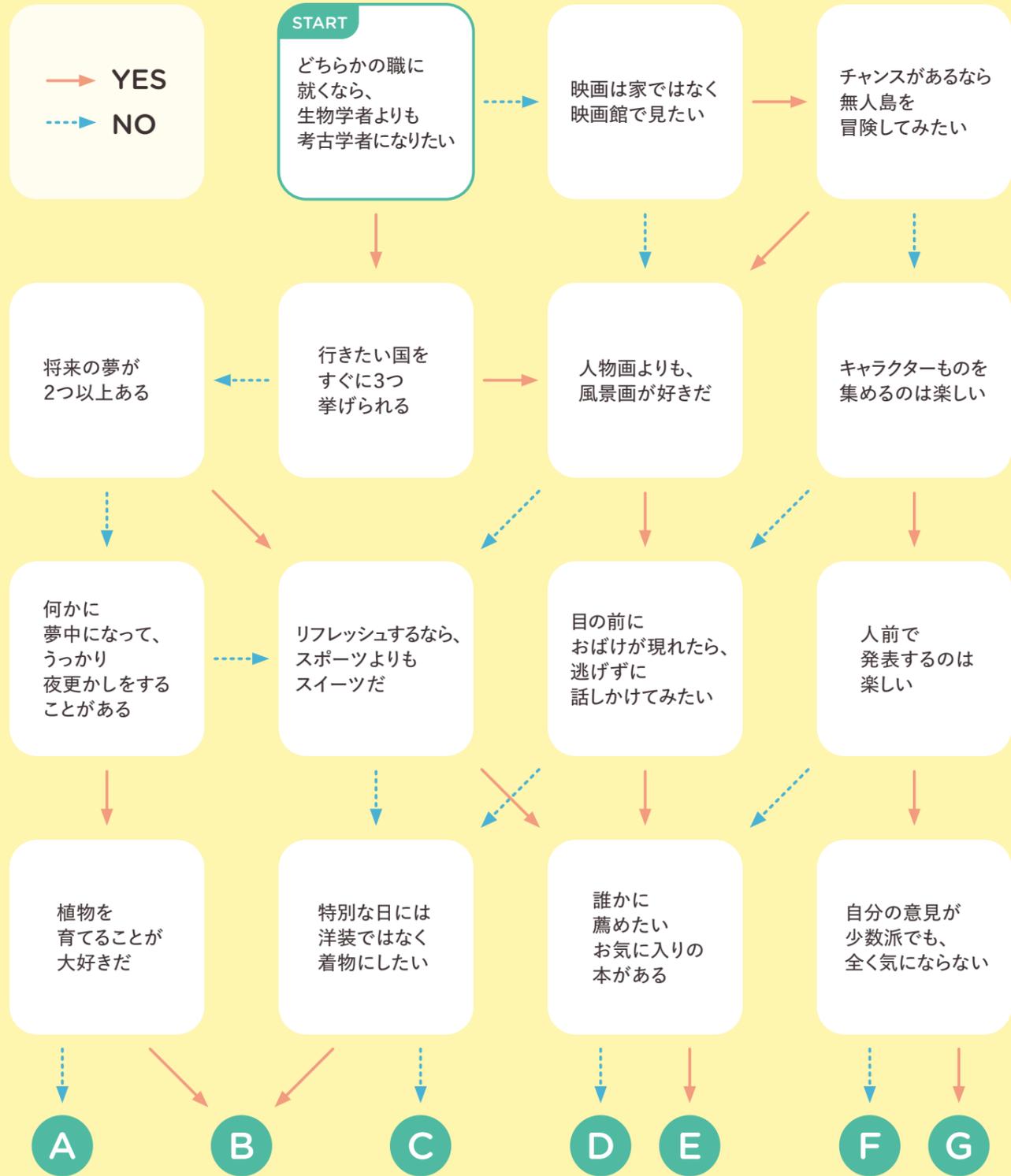
Kyogei Presents

第16回 日本の作曲家編



『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第16弾。
日本の作曲家7人の中から、あなたに似ているタイプの作曲家をご紹介します。

監修・解説 = 山田治生 Text = Haruo Yamada



あなたに似ているタイプの作曲家は？

A 前衛的でオリジナリティを発揮 武満徹 (1930~1996)

海外で最も有名な日本人作曲家の一人。音楽学校には通わず、ほとんど独学で作曲を修める。日本に来ていたストラヴィンスキーが武満の初期の作品である『弦楽のためのレクイエム』に触れ、高く評価。1967年にニューヨーク・フィルからの依頼に応じて作曲された、琵琶、尺八とオーケストラのための『ノヴェンバー・ステップス』は、日本の伝統楽器とオーケストラの共演の先駆けとなり、世界中で演奏され続けている。数多くの映画音楽も手掛けた。



武満徹

B 文化や歴史を大切にし、独自の世界観をもつ 伊福部昭 (1914~2006)

北海道出身。身近にいたアイヌの人々から大きな影響を受け、それは後の作品にも生かされる。大学の専門は林学であり、作曲は独学で修めた。代表作には、『交響譚詩』、『シンフォニア・タブカーラ』、ピアノ協奏曲『リトミカ・オスティナータ』などのオーケストラ作品があげられるが、最も広く知られているのは映画『ゴジラ』の音楽。オーケストレーションの大家であり、『管絃楽法』という著書も残している。教育者としては、東京音楽大学の学長を務めた。



伊福部昭

C 明朗なバランス型だが果敢な一面も 芥川也寸志 (1925~1989)

芥川龍之介の三男として生まれた。作曲家として活躍するほか、指揮も手掛ける。日本作曲家協議会委員長や日本音楽著作権協会理事長を務め、テレビ番組（NHK『音楽の広場』など）の司会者としても人気があった。芥川は、幼い頃より、ストラヴィンスキーの作品に親しみ、学生時代は、伊福部昭に師事。戦後、ソビエト連邦に行き、ショスタコーヴィチにも会った。代表作には『交響三章』、『エローラ交響曲』、オペラ『ヒロシマのオルフェ』などがあげられる。



芥川也寸志

D 天才肌の革新者 滝廉太郎 (1879~1903)

東京音楽学校（現、東京藝術大学音楽学部）で学んだ後、1901年にドイツのライプツィヒ音楽院へ留学したが、肺結核にかり、帰国。1903年に23歳の若さで亡くなった（2023年が没後120周年にあたる）。『花』、『荒城の月』、『箱根八里』、『鳩ぼっぼ』、『雪やこんこん』、『お正月』などの歌曲や童謡が知られている。『花』はドイツ留学の前年に歌曲集『四季』の第1曲として出版された。また、1900年に作曲した『メヌエット』は日本人作曲家が書いた初めてのピアノ独奏作品といわれている。



滝廉太郎

E 自分の道を突き進み多彩に活躍 團伊玖磨 (1924~2001)

祖父は三井財閥の総師であった團琢磨。1932年の血盟団事件で祖父が暗殺されたことが、彼を（実業や政治ではなく）芸術に向かわせたという。木下順二の民話劇を台本とした『夕鶴』は、最も上演回数が多い日本のオペラである。幅広いジャンルの作品を手掛け、オペラは『夕鶴』を含めて7つ、交響曲は6つ残す。歌曲や童謡では『花の街』、『ぞうさん』などが知られている。文筆活動も行い、エッセイストとして人気を博した。



團伊玖磨

F 俯瞰の視点を持ち新しいことを取り入れる先駆者 山田耕筰 (1886~1965)

ベルリン王立アカデミー高等音楽院に学んで、後期ロマン派の影響を受けた。交響曲『かちどきと平和』、交響詩『曼陀羅の華』、オペラ『黒船』などを作曲したほか、『赤とんぼ』、『からたちの花』、『この道』、『鐘が鳴ります』、『ペチカ』、『待ちぼうけ』など、歌曲や童謡にも数多くの名作を残した。指揮者としては、ベルリン・フィルを指揮し、ニューヨークのカーネギーホールにも立つなど国際的に活躍。洋楽関係者としては初の文化勲章を1956年に受章。



山田耕筰

G エネルギッシュでマルチな才能をもつ 山本直純 (1932~2002)

齋藤秀雄に指揮を学ぶ。新日本フィルハーモニー交響楽団の創立に際し中心的な役割を果たす。テレビ番組『オーケストラがやって来た』では、司会、指揮、構成などを担って、クラシック音楽の大衆化にも尽くした。紅いタキシードが指揮者としてのトレードマーク。作曲家としては、映画『男はつらいよ』の音楽、テレビ番組『8時だヨ！全員集合』の音楽、チョコレートのCM（「大きいことはいいことだ」）などで大衆的な人気を博したが、オーケストラ曲などクラシック音楽の作品も残している。



山本直純

山田治生（音楽評論家）

1964年、京都市生まれ。1987年、慶應義塾大学経済学部卒業。著書に『トスカニーニ 大指揮者の生涯とその時代』、小澤征爾の評伝である『音楽の旅人 ある日本人指揮者の軌跡』、『いまどきのクラシック音楽の楽しみ方』（以上、アルファベータ）、編著書に『戦後のオペラ』（新国立劇場運営財団情報センター）、訳書に『レナード・バーンスタイン ザ・ラスト・ロング・インタビュー』（アルファベータ）などがある。

